

第38期 (2018年6月期)

第3四半期連結業績説明資料

2018年 5月

ドン.キホーテ HLDGS

専務取締役 兼 CFO 高橋 光夫

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL 03-5725-7588 FAX 03-5725-7024

<http://www.donki-hd.co.jp/>

e-mail : ir@donki.co.jp

攻めの経営が進化 ドンキホーテHD！！

17年7月～18年3月期

ドンキホーテHDが8日に発表した2017年7月～18年3月期の連結決算は、消費マインドが低調な環境下で、画一性を排除しながら付加価値を訴求する「攻め」の施策を推し進めたことから、同社の存在感がますます際立つ好決算となった。

売上高は前期比13.4%増の7,032億円、営業利益は7.9%増の401億円、純利益は0.7%増の272億円と、いずれも過去最高を更新しており、力強い現場力に裏付けられた既存店成長率は4.5%増と、高いハードルをものともせず、15四半期連続増収が続く。

積極的な「攻めの経営」は、既存店の成長にとどまらず、新規出店20店、ハワイ州のスーパー24店のM&Aなどと併せて、店舗ネットワークは拡大している。

ユニーとのダブルネーム6店は、シナジー効果を発揮して想定以上のお客さま支持を得ながら、好スタートをきった。

インバウンド消費は絶好調だ。免税売上高は加速しており、2月の販売シェアは中華圏の旧正月効果を味方にして10.1%と、史上初めて2桁超えとなる異次元ステージに突入した。

緩やかな回復基調を尻目に、モノ消費に係る支出については厳しい状況が続くものと考えられるが、同社の快進撃は止まらない。



2018年6月期3Q 決算概況

- ✓ 決算業績概況
- ✓ 事業別業績概況
- ✓ 主な資産、負債、純資産の状況
- ✓ セグメント情報
- ✓ キャッシュフロー、設備投資の状況

ドン・キホーテグループトピックス

- ✓ 月次販売高の状況
- ✓ 出店状況&ハイライト情報
- ✓ 決算レビュー
- ✓ ポストGMSの進捗
- ✓ インバウンドの状況
- ✓ 価値創造を支えるために
- ✓ 上場子会社の状況

2018年6月期 通期業績予想

- 本資料における記載金額は、単位未満を四捨五入して表示しております。
- 本資料中、ドンキホーテHD(7532)は「ドンキホーテHD」または「DQHD」、ドン・キホーテ、または同店舗は「DQ」、シンガポールは「SG」、日本アセットマーケティング(8922)は「JAM」及び持分適用関連会社のユニーは「ユニー」または「UNY」、その子会社のUDリテールは「UDR」、アクリーティブ(8423)は「ACR」と表示している箇所があります。
- 前期より「企業結合に関する会計基準」を適用しておりますが、本資料に記載している勘定科目等は、意を損ねることがない程度に簡略した表記をしている箇所があります。

1. 3Q累計連結業績概況

「攻めの経営」を推進し、リテール事業は「個店主義」の徹底強化で、眼の前の商戦を勝ち抜く！
新規事業も順調に立ち上がるなど、3Q業績は過去最高実績を更新！！

- 力強さに欠ける消費環境のもとで、お客さまの消費行動やライバル店の動向にもシビアな状況が垣間見える。地域に寄り添った最適な商品ポートフォリオを構成し、価格戦略をきめ細やかに実施したことで、他店を圧倒。
- インバウンド消費は消耗系商品を中心にますます加速。訪日客のロコミニネットワークの主役としての存在感が大きく、リピート率が高い。3QまでのDQ免税販売額406億円、同構成比8.3%と大幅伸長。
- 販管費については、新規出店及び新規連結会社に係る諸費用が増加するが、「ドンキ流働き方改革」を継続的に推進。まずは商圈内シェアを拡大するなど、トップライン引き上げによる効率改善の成果を獲得。
- ユニーとのダブルネーム6店は、「ポストGMS」業態としてデビュー。シナジー効果を発揮しながら、予想以上に好発進。当面はいっそうの連携を深めて、課題解決を進めながらオペレーションの改善を図り、業績拡大に注力。
- 当3Q（18年1～3月）は、節約マインドが継続する中で、天候不順にも悩まされたが、生活必需品消費に係る品揃えと価格については、競争優位性を発揮して商圈内支持を高める。一方で、在庫削減を進めて過剰感を抑制中。
- これらのことから、3Q累計連結業績は通期業績予想に対する進捗率も順調に推移し、売上高7,032億円（前期比13.4%増：進捗率76.4%）、営業利益401億円（同7.9%増：同78.5%）、経常利益434億円（同20.6%増：同80.7%）、親会社株主に帰属する四半期純利益272億円（同0.7%増：同84.4%）と増収増益を達成し、過去最高実績を更新！！

2. 通期業績見通し

当期3回目の上方修正を実施し、「29期連続増収増益」を見込む！

- 通期業績予想については、上方修正した前回予想（2018年2月6日公表）を再度見直して、売上高9,350億円（前期比12.8%増、前回予想9,200億円）、経常利益540億円（同18.6%増、同538億円）及び親会社株主に帰属する当期純利益333億円（同0.7%増、同322億円）と、さらに上方修正して、29期連続増収増益達成を見込む。（営業利益は510億円（同10.4%増）に据え置く）

3Q累計業績サマリー

ドン・キホーテ HLDGS

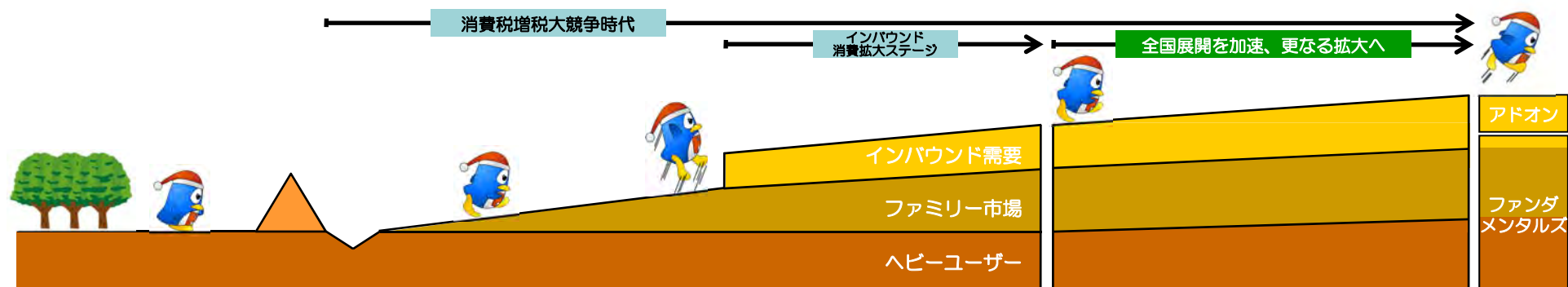
【期間：2017年7月1日～2018年3月31日】

(単位：百万円)

連結実績	当3Q累計実績				前3Q累計実績		通期業績予想 ^{※1}	
	金額	百分比	前期比	進捗率 ^{※2}	金額	百分比	金額	百分比
売上高	703,156	100.0%	113.4%	76.4%	619,987	100.0%	920,000	100.0%
売上総利益	180,615	25.7%	110.2%	75.3%	163,905	26.4%	240,000	26.1%
販管費	140,555	20.0%	110.9%	74.4%	126,767	20.4%	189,000	20.5%
営業利益	40,060	5.7%	107.9%	78.5%	37,138	6.0%	51,000	5.5%
経常利益	43,441	6.2%	120.6%	80.7%	36,006	5.8%	53,800	5.8%
当期純利益	27,163	3.9%	100.7%	84.4%	26,977	4.4%	32,200	3.5%
1株利益	171.71円		100.7%	84.4%	170.59円		203.55円	

※1. 通期業績予想は、2018年2月6日に当初予想（2017年8月15日公表：売上高8,800億円、営業利益480億円、経常利益480億円、純利益280億円）を修正したものであります。

※2. 進捗率は通期業績予想に対する進行割合を表しております。



3Q累計連結業績概況コメント

ドン・キホーテ HLDGS

▶ 連結売上高：7,032億円（前期比13.4%増）

必需品需要がますます増大し、3Q累計期間におけるDQ既存店は4.5%増（真水2.4pt増、免税2.1pt増）。MEGA運営の長崎屋は2.7%増と、いずれも前期までの高いハードルをさらに上回る。インバウンド消費は、リピート客の増加に支えられて、同売上高は56.7%増と新免税制度開始以来42ヵ月連続前年クリア中。
[参考]：新規連結された海外事業（QSI及びSG店）を除くと6,886億円（同11.1%増）

▶ 当3Q末店舗数：408店（前3Q末360店、前期末368店）

新規出店国内19店（DQ10店、MEGA2店、New MEGA6店、驚安堂1店）、同海外1店（SG：ドンドンドンキ1店）、M&A24店（ハワイ州：QSI）、閉店4店。
[参考]：UNYとのダブルネーム出店6店。

▶ 連結売上総利益：1,806億円（前期比10.2%増）、総利益率：25.7%（同0.7pt低下）

お客さまのホンネに向き合って、生活必需品の品揃えを強化し、価格訴求を徹底。商圏内競争力を高め、「率」<「額」を重視した施策により、お買い上げ客数増を実現しながら、他社シェアを獲得。

▶ 連結販管費：1,406億円（同10.9%増）、販管费率：20.0%（同0.4pt改善）

新規出店に伴う初期費用や新たに子会社化したQSIに係る諸費用は増加したが、トップライン上昇効果もあって販管费率は前期を0.4pt下回る。
[参考]：新規連結された海外事業（QSI及びSG店）を除くと1,363億円、販管费率19.8%（0.6pt低下）

▶ 営業外収支戻：34億円のプラス

受取利息・配当金11億円、持分法投資利益31億円/支払利息21億円、債権流動化費用3億円など。

▶ 特別損益戻：2億円のマイナス

固定資産売却益1億円/固定資産除却損1億円、店舗閉鎖損失1億円など。

▶ これらのことから、営業利益401億円（同7.9%増）、経常利益434億円（同20.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益272億円（同0.7%増）と3Q最高益をいずれも更新。

3Q累計連結業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2017年7月1日～2018年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	703,156	100.0%	619,987	100.0%	113.4%
売上総利益	180,615	25.7%	163,905	26.4%	110.2%
販管費	140,555	20.0%	126,767	20.4%	110.9%
給与手当	52,791	7.5%	48,252	7.8%	109.4%
地代家賃	20,846	3.0%	17,201	2.8%	121.2%
支払手数料	16,517	2.3%	14,008	2.2%	117.9%
減価償却費	10,737	1.5%	10,356	1.7%	103.7%
その他	39,664	5.7%	36,950	5.9%	107.3%
営業利益	40,060	5.7%	37,138	6.0%	107.9%
経常利益	43,441	6.2%	36,006	5.8%	120.6%
当期純利益	27,163	3.9%	26,977	4.4%	100.7%
1株当たり純利益	171.71円		170.59円		100.7%

3Q累計事業別業績概況コメント

ドン.キホーテ HLDGS

▶リテール事業 6,822億円（前期比13.8%増）

「良いものをお得に買いたい」という消費者ニーズは強く、魅力的な商品構成と価格提案により商圈内シェアを拡大！
店舗競争力を発揮することでライバル店を着実に追い込み、支持基盤拡大が客数増と販売高増に繋がる！！
インバウンド消費は、選別消費が進む中、ますます「選ばれる お店」として、客数増加が顕著に！！

* 「家電製品」 600億円（同12.9%増）

4KテレビなどのAV家電が牽引。ヘッドフォンは機能性やデザインが支持されて人気商品となる。
スマートフォンアクセサリは高成長を記録してエースに成長した他、掃除機などの生活家電が貢献。

* 「日用雑貨品」 1,625億円（同21.8%増）

インバウンド消費がリードした化粧品や医薬品が二大稼ぎ頭となり日用消耗品が伸長。
サンスクリーンやリップクリームなどの季節商品は、気温の変化に伴って押し上げ効果を発揮。

* 「食品」 2,327億円（同14.4%増）

菓子類や調味料を含む加工食品やヨーグルトなどの日配品を始めとして、全ての商品群で軒並み高い成長率を記録。
MEGA店は和牛などの付加価値を伴った精肉の人気が高い他、葉物野菜などの青果と惣菜類が貢献。

* 「時計・ファッション用品」 1,222億円（同0.3%増）

加熱式タバコや周辺パーツの伸び率が高い。手袋などの服飾小物や実用下着並びにカジュアル衣料が堅調に推移。

* 「スポーツ・レジャー用品」 425億円（同3.5%増）

加圧シャツなどのスポーツ用品が好調となり、天候やトレンド変化の影響を受けた季節イベント用品や玩具などの伸び悩みをカバー。

* 「DIY用品」 119億円（同4.0%増）

台風などの天候不順や低気温により、エクステリア用品が苦戦する局面も独自の提案力を発揮。
スコップなどの降雪対策用品や自転車などの新生活用品が寄与。

* 「海外」 417億円（同55.0%増）

精肉や鮮魚などの生鮮食品は、商品ラインナップと価格提案が奏功して、支持率上昇。
青果と惣菜は、品質の良さと豊富な品揃えがローカル客のハートを掴む。（ご参考：当3Q 1USD=111.8円、前3Q=107.6円）

▶テナント賃貸事業 159億円（同3.0%増）

積極的な新規出店が順調に進捗していることで、商業施設事業及びJAM事業の収益拡大に貢献。

3Q累計事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2017年7月1日～2018年3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q (累計)		前3Q (累計)		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業 ^{※1}	682,198	97.0%	599,517	96.7%	113.8%
家電製品	59,970	8.5%	53,121	8.6%	112.9%
日用雑貨品	162,482	23.1%	133,377	21.5%	121.8%
食品	232,745	33.1%	203,394	32.8%	114.4%
時計・ファッション用品	122,153	17.4%	121,728	19.6%	100.3%
スポーツ・レジャー用品	42,549	6.1%	41,128	6.6%	103.5%
DIY用品	11,927	1.7%	11,470	1.9%	104.0%
海外 ^{※2}	41,741	5.9%	26,936	4.3%	155.0%
その他商品	8,631	1.2%	8,363	1.4%	103.2%
テナント賃貸事業 ^{※1}	15,914	2.3%	15,450	2.5%	103.0%
その他事業	5,044	0.7%	5,020	0.8%	100.5%
合計	703,156	100.0%	619,987	100.0%	113.4%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. 当3Q 1USD=111.8円、前3Q 1USD=107.6円

主な資産の状況

ドンキホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	18年3月	17年6月	増減額
流動資産	251,136	227,585	23,551
現預金	74,521	76,340	▲1,819
商品	137,168	123,969	13,199
固定資産	546,309	415,283	131,026
建物等	130,101	118,623	11,478
土地	175,660	171,018	4,642
長期貸付金	97,124	23,171	73,953
敷金保証金	44,775	40,474	4,301
資産合計	797,445	642,868	154,577

主な資産の状況

▶ **総資産：7,974億円**（前期末比1,546億円増）
 主な増減要因は、受取手形及び売掛金55億円増、商品132億円増、有形固定資産207億円増並びに投資その他の資産969億円増などの一方で、現預金18億円減。

▶ **現預金：745億円**（同18億円減）
 当期及び次期以降の新規出店、QSIの子会社化並びにユニーとの資本提携に係る投資資金を調達。

▶ **商品：1,372億円**
 （同132億円増、前3Q末比191億円増、同16.2%増）
 新規出店に係る商品在庫105億円に加えて、QSI及びシンガポール店在庫35億円が増加。

▶ **固定資産：5,463億円**（同1,310億円増）
 当期中の新規出店に加えて、QSI子会社化及びユニーへ出資したことなどにより、有形固定資産207億円増、のれん134億円増、投資有価証券227億円増及び長期貸付金740億円増など。

主な負債・純資産の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	18年3月	17年6月	増減額
流動負債	166,513	164,825	1,688
買掛金	93,159	85,661	7,498
短期負債 ^{※1}	21,895	25,022	▲3,127
固定負債	325,694	198,113	127,581
社債	91,874	74,890	16,984
長期借入金	200,515	84,638	115,877
債権流動化に伴う 長期支払債務	13,930	19,366	▲5,436
負債合計	492,207	362,938	129,269
純資産合計	305,238	279,930	25,308
負債・純資産合計	797,445	642,868	154,577

主な負債・純資産の状況

- ▶ 負債合計：4,922億円（同1,293億円増）
 主な増減要因は、買掛金75億円増及び有利子負債1,297億円増（短期性負債31億円減、長期性負債1,329億円増）の一方で、債権流動化に伴う支払債務54億円減など。
- ▶ 有利子負債：3,143億円
 （同1,297億円増、依存率39.4%）
- ▶ 純負債：2,398億円（同1,316億円増）
- ▶ 債権流動化に伴う支払債務：212億円
 （同54億円減）
 ABL（Asset backed loan）による調達残高
- ▶ ネットD/Eレシオ：0.79倍
- ▶ インタレスト・カバレッジ・レシオ：19.2倍
- ▶ ROE：13.5%（年換算）
- ▶ 純資産：3,052億円
 （同253億円増、自己資本比率35.6%）

※1. 短期負債 = 短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、1年内償還予定の社債

3Q累計セグメント情報 (事業別)

セグメント利益は、「リテール事業」221億円、
「テナント賃貸事業」133億円、「その他の事業」46億円！！

当3Q累計 セグメント概要【期間：2017年7月1日～2018年3月31日】※1

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業※2	計	調整	連結
外部売上高	682,198	15,914	5,044	703,156	—	703,156
内部取引等	555	16,167	6,777	23,499	▲23,499	—
計	682,753	32,081	11,821	726,655	▲23,499	703,156
セグメント利益	22,123	13,340	4,552	40,015	45	40,060

前3Q累計 セグメント概要【期間：2016年7月1日～2017年3月31日】※1

(単位：百万円)

	リテール事業	テナント賃貸事業	その他事業※2	計	調整	連結
外部売上高	599,517	15,450	5,020	619,987	—	619,987
内部取引等	374	14,890	7,081	22,345	▲22,345	—
計	599,891	30,340	12,101	642,332	▲22,345	619,987
セグメント利益	19,673	12,520	5,009	37,202	▲64	37,138

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

※2. その他事業は「不動産事業」「マーケティング事業」「金融サービス事業（当期より対象外：ACR）」などであります。

キャッシュフロー&設備投資の状況

ドン・キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

1. キャッシュフローの状況	当3Q	前3Q	増減額	キャッシュフロー <営業CF> ▶税金等調整前純利益433億円、減価償却費126億円及び仕入債務の増加45億円などが増加要因となる一方で、持分法投資利益31億円、売上債権の増加54億円、たな卸資産の増加103億円及び税金支払額184億円などが減少要因となったことから、259億円がキャッシュイン <投資CF> ▶出店に伴う有形固定資産の純増318億円、子会社株式の取得163億円、関係会社株式の取得200億円及び貸付金支出777億円などで、1,447億円がキャッシュアウト <財務CF> ▶長期借入金の純増1,291億円及び社債の純増14億円が増加要因となる一方で、債権流動化の返済56億円及び配当金支払41億円などが減少要因となったことから、1,196億円がキャッシュイン
期首残高	78,094	44,496	33,598	
営業活動CF	25,891	42,850	▲16,959	
投資活動CF	▲144,716	▲32,634	▲112,082	
財務活動CF	119,596	21,042	98,554	
期中増減等	375	31,379	▲31,004	
期末残高	78,469	75,875	2,594	
営業活動CF+投資活動CF	▲118,825	10,216	▲129,041	

2. 設備投資の状況

設備投資額	34,538	33,564	974
キャッシュフロー ^{※1}	34,054	34,666	▲612
差引	▲484	1,102	▲1,586

設備投資
▶設備投資は345億円（DQ170億円、長崎屋25億円、JAM233億円など：敷金保証金回収などを考慮した純増加額は324億円）、キャッシュフローは341億円獲得したため、フリーキャッシュフローは▲5億円。

※1. キャッシュフロー = 純利益+減価償却費+特別損失-配当金

当期出店状況

フォーマット別店舗数

	2016年 6月期	2017年 6月期	2018年6月期		
			1Q	2Q	3Q
ドン・キホーテ	※1 194	198	199	204	206
M E G A	※2 39	40	40	41	42
New M E G A	55	72	73	77	78
ピカソ	※3 20	21	21	21	21
驚安堂	3	4	4	3	4
ドイト	14	17	17	17	17
長崎屋	2	2	2	2	2
海外	14	14	37	38	38

法人別店舗数

ドン・キホーテ	270	292	294	303	306
長崎屋	39	40	40	41	42
ドイト	14	17	17	17	17
ライラック	3	4	4	3	4
ダイシン百貨店	1	1	1	1	1
国内合計	327	354	356	365	370
D Q U S A	3	3	※4 4	4	4
M A R U K A I	11	11	※4 9	9	9
Q S I	-	-	24	24	24
P P I H D	-	-	-	1	1
海外合計	14	14	37	38	38
合計	341	368	393	403	408

- ※1. 「ドン・キホーテ」には、「ドン・キホーテ」及び「パウ」が含まれております。
- ※2. (株)長崎屋が運営する業態転換店は、すべて「MEGA」に含まれております。
- ※3. 「ピカソ」には、「ピカソ」「エッセンス」「エキドンキ」及び「ソラドンキ」が含まれております。
- ※4. MARUKAI/ハワイ2店をDQUSAの子会社に改組しております。
(うち1店は地域再開発のため閉鎖しております)
- ※5. 地域再開発のため1店、区画整理事業のため1店及び効率改善のため2店閉鎖しております。
- ※6. 上記の他に、1店が店舗建替えのため休業しております。
- ※7. *は、ソリューション出店であります。

3月 ドン・キホーテ 西新井駅前店



1月 ドン・キホーテ 狸小路店



2月 MEGAドン・キホーテ 姫路広畑店 *



シンガポール

1店

ハワイ州

24店

3月 MEGAドン・キホーテ 霧島隼人店



2月 驚安堂 あぎる野店



当期ハイライト

3Q累計期間の新規出店数は20店。通期は31店を予定。
QSI 24店をM&Aし、UNYとのダブルネーム6店も好発進。

法人	業態	1 Q			2 Q			3 Q			4 Q		
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
DQ	DQ	新宿東南口 (東京)		長野駅前 (長野) *	長岡川崎 (新潟) *	世田谷若林 (東京)	吹田江坂 (大阪)	狸小路 (北海道)		西新井駅前 (東京)		赤坂見附 (東京)	仙台駅西口本店 (宮城)
	MEGA	名護 (沖縄)			関マーゴ (岐阜) *	クラスポ蒲郡 (愛知) *	京都山科 (京都)			霧島隼人 (鹿児島)		横手 (秋田) *	鶴見中央 (神奈川)
	ピカソ												
長崎屋				豊橋 (愛知) *				姫路広畑 (兵庫) *					
ライラック								あきる野 (東京)					
ドイト											川越 (埼玉)		
海外			ハワイ州 24店舗取得			シンガポール *							*
UDリテール	ユニー×DQ ダブルネーム店運営								大口(神奈川)	東海通(愛知)			
	UFHD 60% ↓ DQHD 40% ↓ ユニー 100% ↓ UDリテール								座間(神奈川)				
									星川(三重)				
									豊田元町(愛知)				
									国府(愛知)				

- 「熱中症予防キャンペーン」実施
- ユニー・ファミリーマートHDと資本・業務提携
- QSI, Inc.の全株式を取得し連結子会社化
- 事業領域拡大のため、新任取締役8名就任
- ユニー株式40%取得
- グループ店舗数400店達成
- ASEAN 1号店をシンガポールに出店
- 代表2名体制に変更
- DQ+UNYダブルネーム6店開店
- 無担保社債200億円発行
- ジェネリック家電製品大賞2年連続受賞
- 免税販売高最高記録を更新

= DQ
 = MEGA
 = ドイト
 = ピカソ
 = 驚安堂
 = 海外
 = MEGAドン・キホーテ UNY (アビタ・ピアゴからの業態転換店)

* = ソリューション出店 ✓ = (スクラップ) & ビルド店

3Q決算レビュー

降雪や低気温など外出率にマイナス影響が続いた外部要因も、徹底した攻めの姿勢で勝ち抜く！
 価格競争力を武器に、商圈内ポジションを強化した国内消費とインバウンド消費の二刀流で躍進！！
 営業利益は三四半期連続100億円突破！！

<天候不順も必需品消費加速 1月>

既存店売上高：3.0%増 客数：1.3%増 客単価：1.6%増

- 東京都心20cm以上の積雪を記録
- 寒気が冬物季節商品の需要を喚起
- インバウンドニーズの加速を実感

<五輪観戦ウチナカ消費喚起 2月>

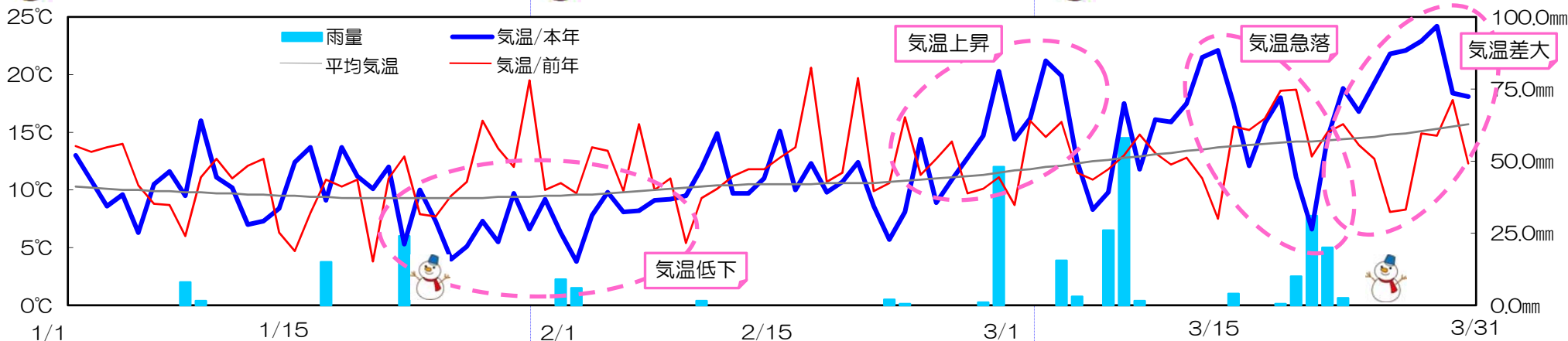
既存店売上高：3.6%増 客数：1.3%増 客単価：2.3%増

- 生活必需品のニーズが高まり好調
- 免税売上構成比が10%台に到達
- 価格施策が奏功して商圈をリード

<花見消費が天候不順カバー 3月>

既存店売上高：5.2%増 客数：2.5%増 客単価：2.6%増

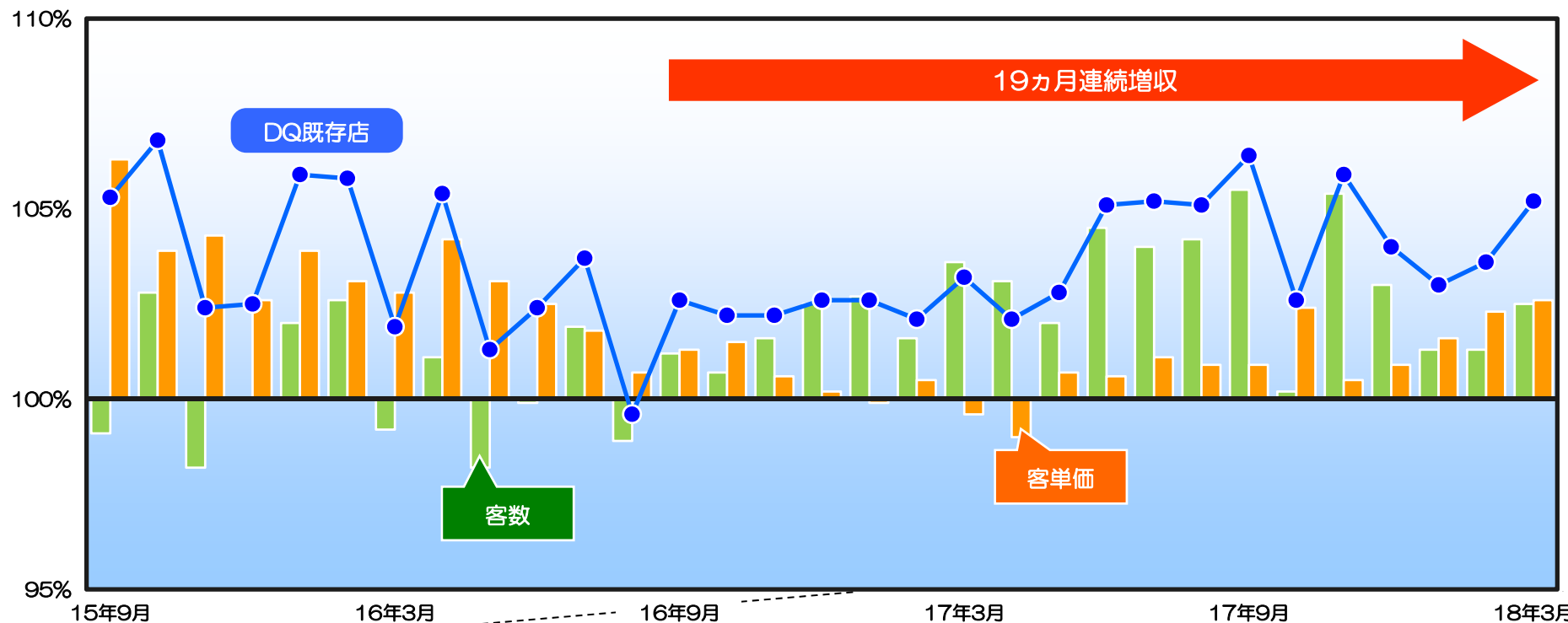
- 気温が乱高下して季節外れの降雪
- インバウンド盛況で免税売上最高
- 桜満開で食品やレジャー用品伸長



<主な出来事>

	今年	昨年
1月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日経平均株価が大発会として26年ぶりの高水準 ✓ 群馬県草津白根山が噴火 (1月23日) <出店数> 1 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ トランプ氏が米大統領に就任 (1月20日) ✓ 春節・旧正月休暇 (中国：1月27日～2月2日) <出店数> 0
2月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 平昌オリンピック開催 (2月9日～25日) <出店数> 2 ✓ 春節・旧正月休暇 (中国：2月15日～21日) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 実質賃金が5年ぶりに増加 (厚労省調査) <出店数> 3 ✓ プレミアムフライデー初実施 (2月24日)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 平昌パラリンピック開催 (3月9日～18日) <出店数> 2 ✓ 米国が鉄鋼、アルミ製品に輸入制限を発動 ✓ 東京で昨年より4日早く桜開花 (3月17日) 	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 北朝鮮ミサイルが日本の排他的経済水域に落下 (3月6日) ✓ 東京が全国で一番早く桜開花 (3月21日) <出店数> 3 ✓ 2017年度予算が過去最高額で成立

DQ月次販売高の状況 (DQ)



既存店	17年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	18年1月	2月	3月
売上高	102.6%	102.1%	103.2%	102.1%	102.8%	105.1%	105.2%	105.1%	106.4%	102.6%	105.9%	104.0%	103.0%	103.6%	105.2%
・客数	102.7%	101.6%	103.6%	103.1%	102.0%	104.5%	104.0%	104.2%	105.5%	100.2%	105.4%	103.0%	101.3%	101.3%	102.5%
・客単価	99.9%	100.5%	99.6%	99.0%	100.7%	100.6%	101.1%	100.9%	100.9%	102.4%	100.5%	100.9%	101.6%	102.3%	102.6%
対象店舗数	244店	244店	245店	247店	258店	258店	265店	269店	271店	274店	275店	277店	278店	278店	278店
土日休日数	-1日	-2日	±0日	±0日	-1日	±0日	±0日	±0日	±0日	-1日	±0日	±0日	-1日	+1日	+1日

景気回復の足音も、眼の前の景色は天候不順と節約消費で競争激化！！
 強気で攻めた品揃えと価格提案が本気で支持され、インバウンド人気は活気にあふれる。今日もドンキは元気いっぱい！
 3Q累計既存店は4.5%増（客数3.0%増、客単価1.5%増：真水2.4pt増、免税2.1pt増）を達成。

3Q連結損益業績概況

ドンキホーテ HLDGS

【期間：2018年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

	当3Q		前3Q		前期比
	金額	百分比	金額	百分比	
売上高	240,326	100.0%	202,293	100.0%	118.8%
売上総利益	60,439	25.1%	53,266	26.3%	113.5%
販管費	49,626	20.6%	42,471	21.0%	116.8%
給与手当	18,760	7.8%	16,128	8.0%	116.3%
地代家賃	7,443	3.1%	5,814	2.9%	128.0%
支払手数料	5,352	2.2%	4,583	2.3%	116.8%
減価償却費	3,896	1.6%	3,564	1.7%	109.3%
その他	14,175	5.9%	12,382	6.1%	114.5%
営業利益	10,813	4.5%	10,795	5.3%	100.2%
経常利益	12,383	5.2%	9,078	4.5%	136.4%
当期純利益	8,485	3.5%	10,518	5.2%	80.7%
1株当たり純利益	53.64円		66.50円		80.7%

3Q連結事業別業績概況

ドン・キホーテ HLDGS

【期間：2018年1月1日～3月31日】

(単位：百万円)

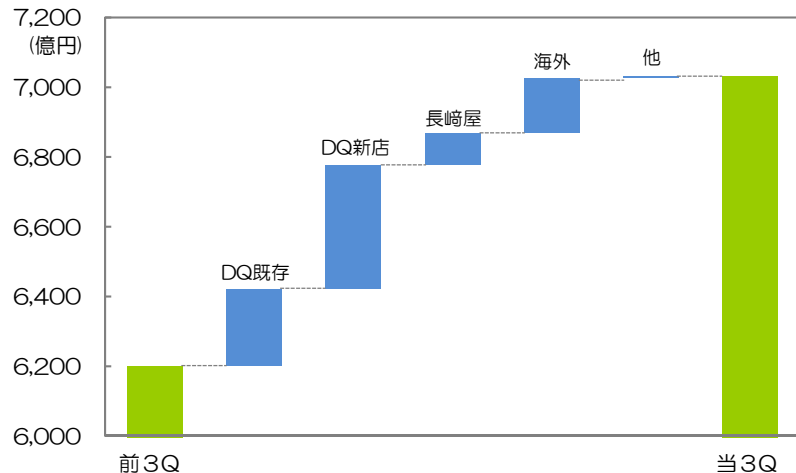
	当3Q		前3Q		前期比
	金額	構成比	金額	構成比	
リテール事業 ^{※1}	233,407	97.1%	195,802	96.8%	119.2%
家電製品	19,959	8.3%	17,631	8.7%	113.2%
日用雑貨品	54,074	22.5%	45,595	22.5%	118.6%
食品	79,188	33.0%	69,409	34.3%	114.1%
時計・ファッション用品	38,316	15.9%	35,932	17.8%	106.6%
スポーツ・レジャー用品	11,470	4.8%	10,684	5.3%	107.4%
DIY用品	3,761	1.5%	3,680	1.8%	102.2%
海外 ^{※2}	23,814	9.9%	10,163	5.0%	234.3%
その他商品	2,825	1.2%	2,708	1.4%	104.3%
テナント賃貸事業 ^{※1}	5,228	2.2%	5,100	2.5%	102.5%
その他事業	1,691	0.7%	1,391	0.7%	121.6%
合計	240,326	100.0%	202,293	100.0%	118.8%

※1. 「報告セグメント」については、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」及び「同 運用指針」を適用し、「リテール事業」と「テナント賃貸事業」としております。

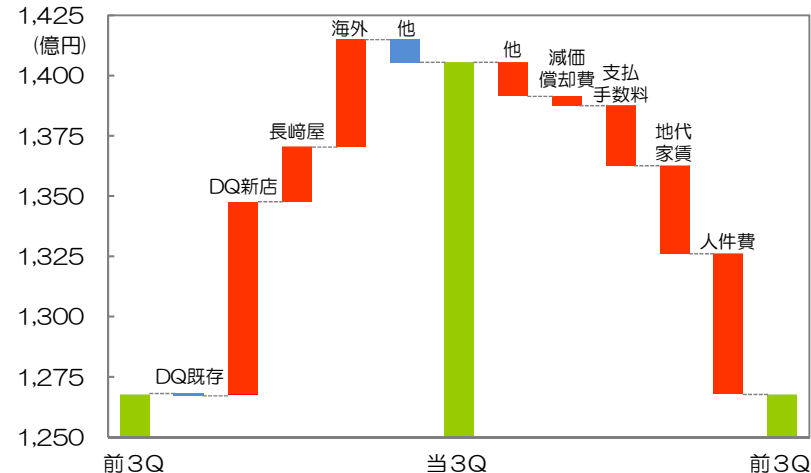
※2. 当3Q 1USD=111.8円、前3Q 1USD=107.6円

3Q累計実績を掘り下げて

売上高増減要因分析

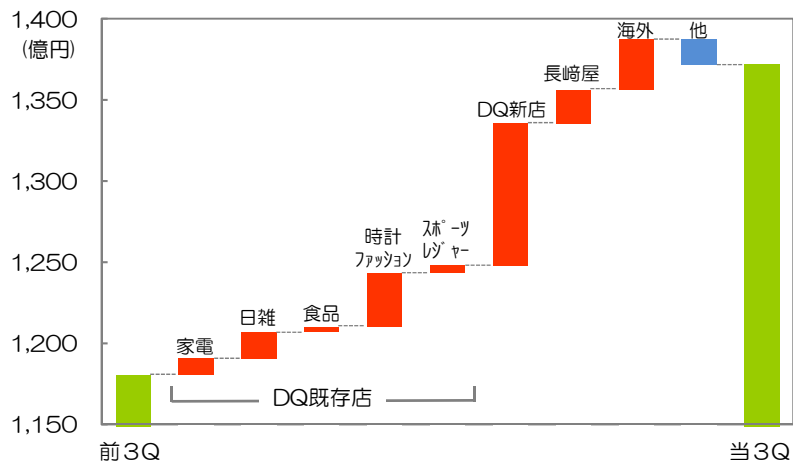


販管費増減要因分析

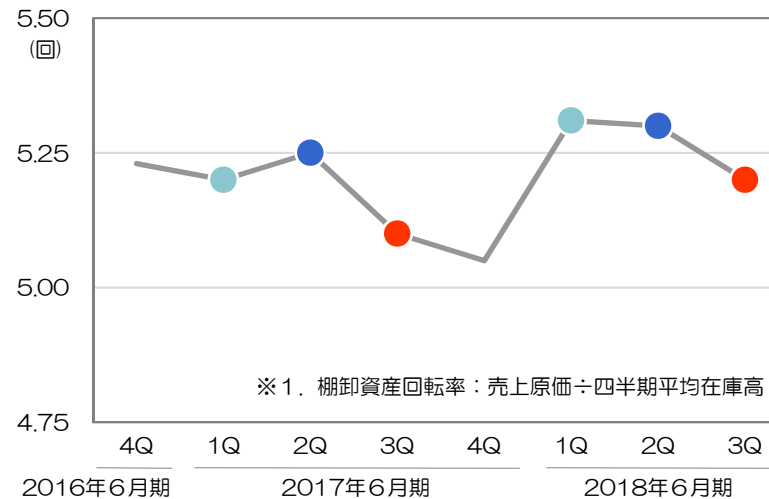


- ✓ 競争力強化でシェア奪取・免税販売も好調
- ✓ トップライン上昇と働き方改革で効率改善
- ✓ 既存店在庫増を適切に見極め回転率は改善

商品在庫増減要因分析

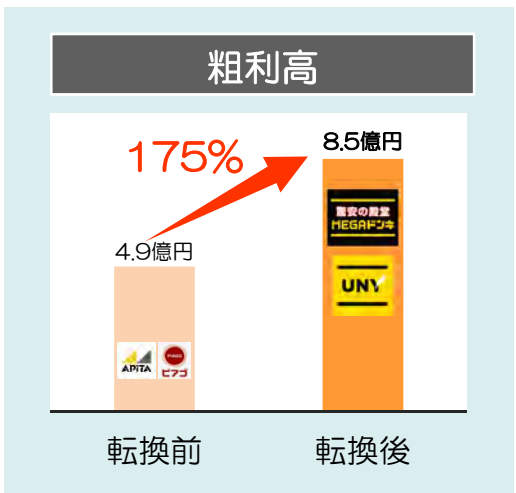
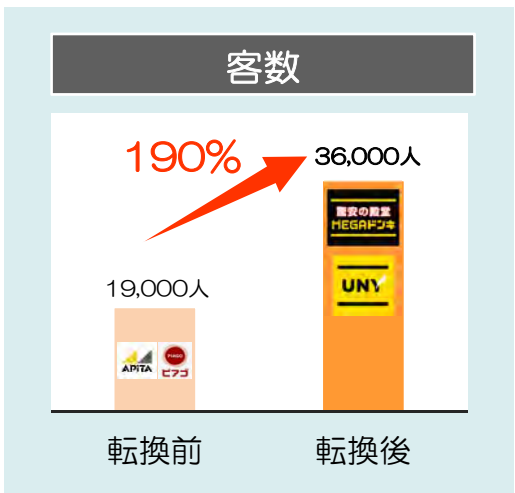
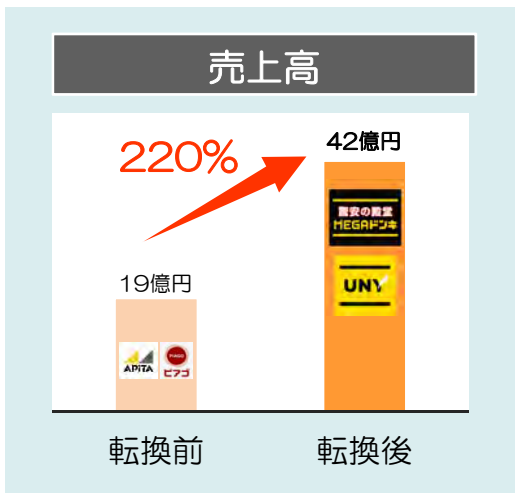


棚卸資産回転率※1

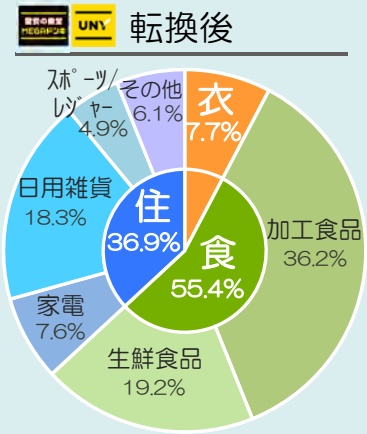
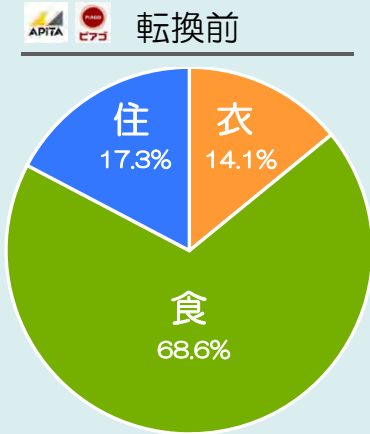


ポストGMS (ダブルネーム店) の進捗

ユニーとのダブルネーム6店は、「ポストGMS」業態としてデビュー。
シナジー効果を発揮して想定以上のお客さま支持を得ながら、好スタート！

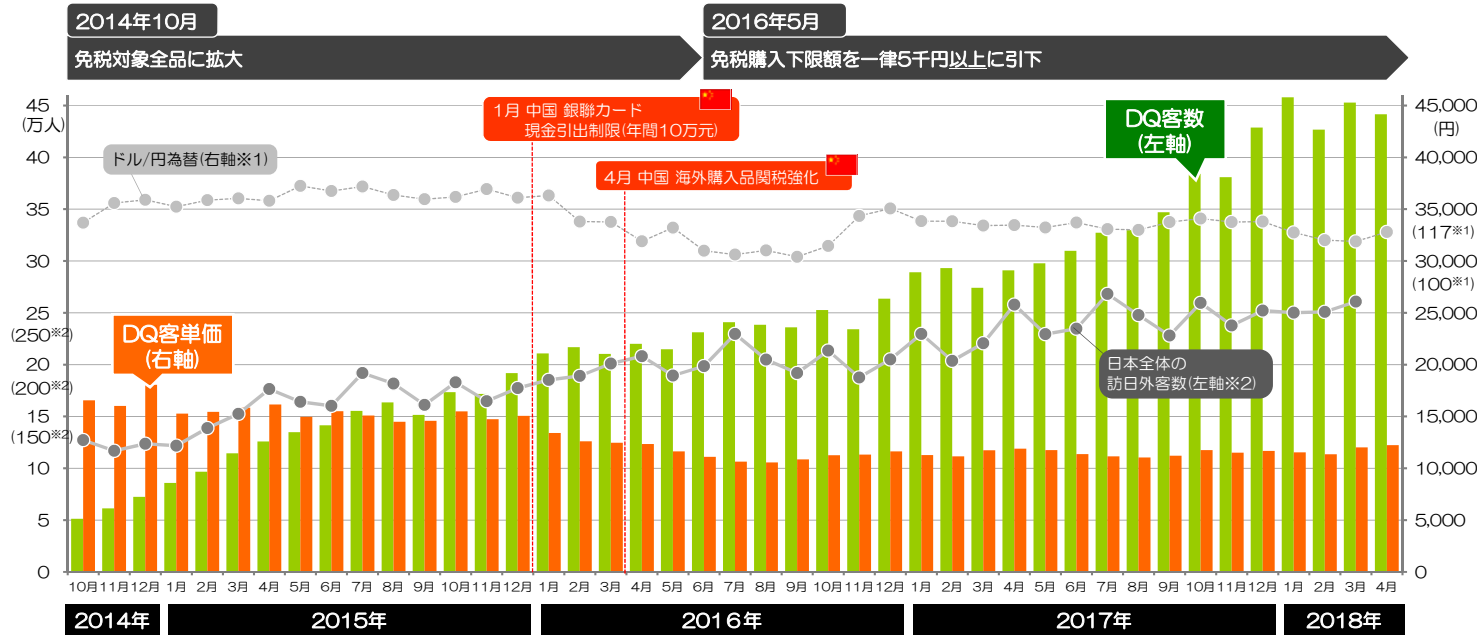


売上構成比



インバウンドの状況

◆ 免税客単価と客数の推移

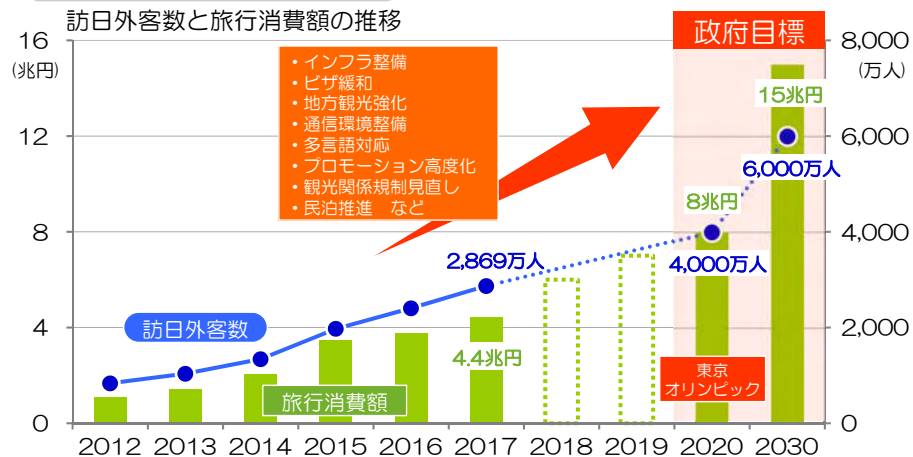


◆ 免税売上高構成比 上位10店

順位	店舗名	免税構成比
1	道頓堀御堂筋店 (大阪)	64.9%
2	道頓堀店 (大阪)	64.0%
3	なんば千日前店 (大阪)	53.6%
4	中洲店 (福岡)	51.5%
5	国際通り店 (沖縄)	50.3%
6	京都アバンティ店 (京都)	45.6%
7	銀座本館 (東京)	44.1%
8	新宿歌舞伎町店 (東京)	39.7%
9	新宿東南口店 (東京)	38.3%
10	名古屋栄店 (愛知)	37.8%
全店		8.3%

対象データ：
 (株)ドン・キホーテ (2017年7月1日～2018年3月31日)
 ランキング上位10店は、開店後6ヵ月経過店舗

日本のインバウンド状況

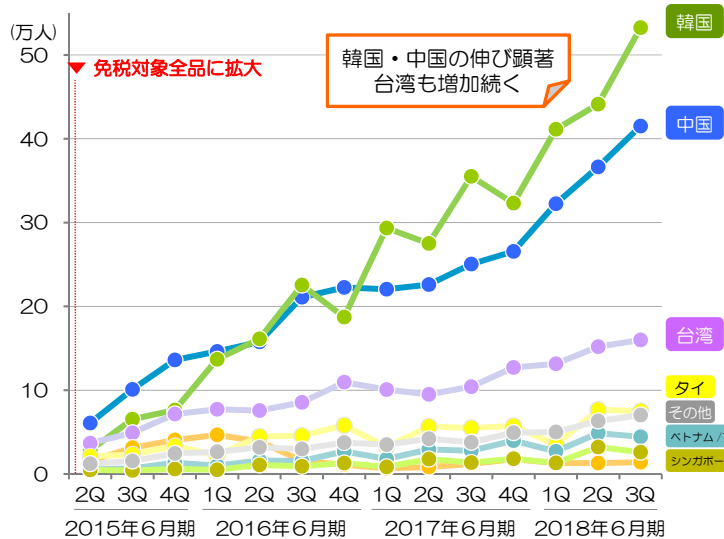


1月19日オープン! 札幌 狸小路店

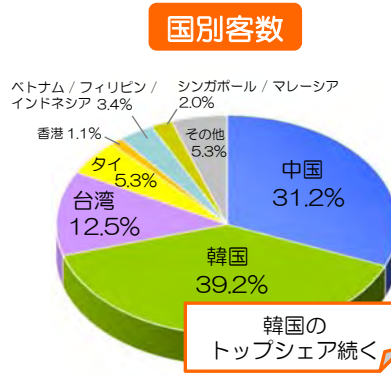


インバウンドの状況

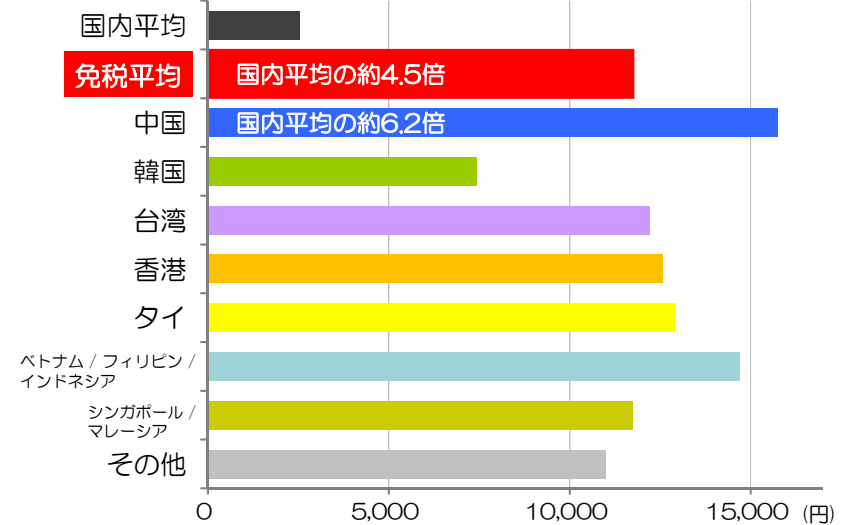
訪日外国人客数の推移



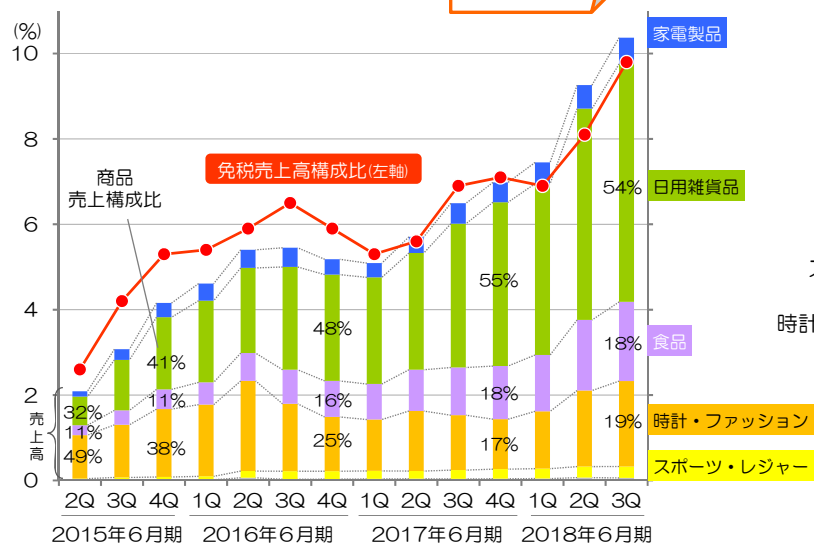
免税構成比



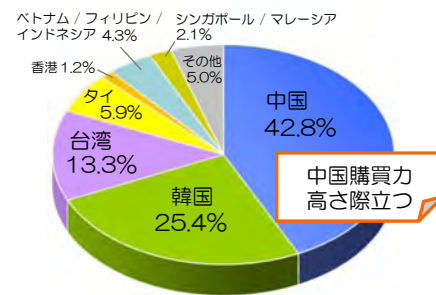
免税客単価



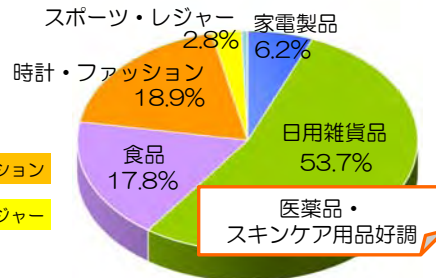
商品別免税売上高の推移



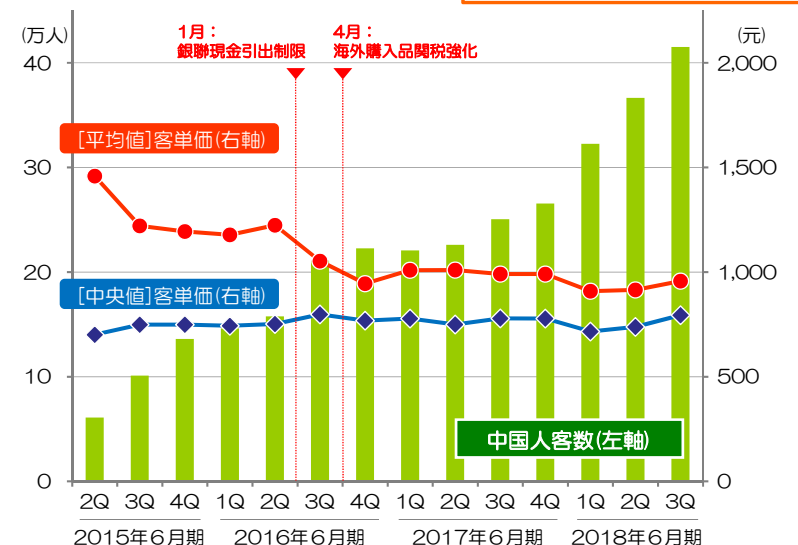
国別免税売上高



商品別免税売上高



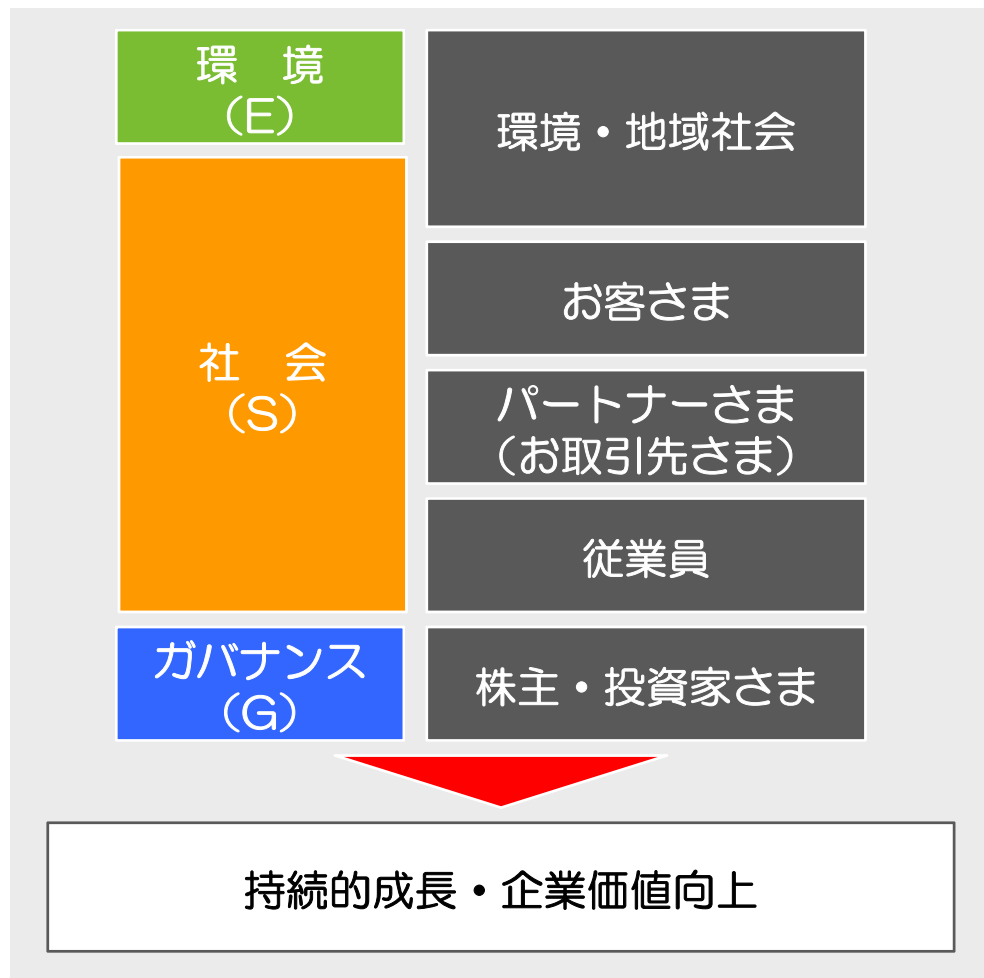
中国人客単価推移：元換算



持続的な成長に向けて

持続的成長・企業価値向上のための ESGの取り組み

本業である総合小売業の事業活動を通じて、ステークホルダーと信頼関係を醸成し、社会課題に取り組みながら、当社グループの持続的成長・中長期的な企業価値向上を目指します。



環境

省エネ・省資源への取り組み

空調設備用の省エネ機器導入など、環境負荷軽減に取り組んでいます。



空調設備用
省エネ機器の導入



店内照明のLED化

厨房・トイレに
節水器導入

納品用ダンボール
100%リサイクル

● 過去4年間のエネルギーの使用に係る原単位※の対前年比(%)

	2013年	2014年	2015年	2016年	過去4年間 平均原単位変化
(株)ドン・キホーテ	93.1	97.8	98.3	101.0	97.5
(株)長崎屋	97.8	73.6	99.7	99.8	92.7
ドイト(株)	86.3	75.2	85.9	82.9	82.5

※エネルギーの使用に係る原単位=エネルギー使用量(電気・ガス・重油使用量)÷経済活動量(店舗面積×営業時間)

ハロウィン清掃

ハロウィン時期に最も人出の多い渋谷駅周辺において、店舗及び本社スタッフが清掃活動を実施しています。



価値創造を支えるために

社会

■ 地域社会 / お客さまと共に

地域のインフラを支える小売業として、地域社会の課題解決や、お客さま満足度の向上に努めています。



増加するインバウンド客へのサービス拡充



多様なお客さまへの対応 (店舗にオールジェンダートイレ設置)



店舗での就業体験「商育」実施



お客さまからのリクエストへ迅速対応 (お客さまの声を一元管理するWEBシステム「STARS」を活用)

■ 従業員と共に

すべての従業員が働きやすい職場を目指し、ダイバーシティを推進しています。

女性の多様な働き方を支援する「ココロプロジェクト」活動



LGBT* 向けイベント活動



店舗内保育園「ドンキッズ」開設



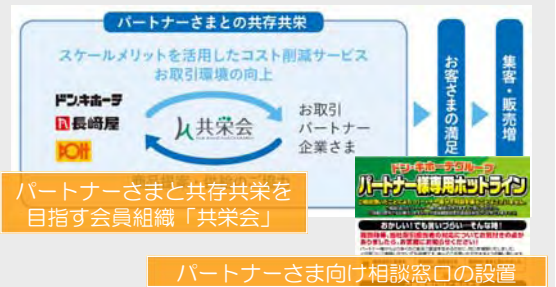
早朝品出しスタッフとしてシニア人材を活用



グローバル人材向け社内ブログ「Donki Global Connection」開設

■ パートナーさまと共に

パートナーさまと安定的で継続的な関係構築に向けた取り組みを行っています。



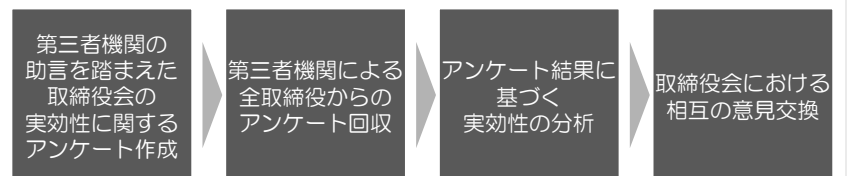
	2015年 6月期	2016年 6月期	2017年 6月期
育児・介護休職取得者数(人)			
産休・育休取得	214	350	376
育児短時間勤務	16	21	24
介護休職	6	18	15
定年再雇用者数(人)			
総数	64	79	99
当該年度の再雇用者数	15	19	21

ガバナンス

■ 取締役会実効性評価

第三者機関を利用して取締役会の実効性評価を実施しています。評価の結果を踏まえ、課題解決に向けた取り組みを進め、取締役会の実効性の一層の強化に努めるとともに、ガバナンス体制の拡充を図ります。

● 評価プロセス



● 評価結果の概要

強み	①	適切な業務執行権限の委譲による迅速な意思決定プロセス
	②	経営理念等を十分に踏まえた取締役会運営
	③	オープンで活弁な議論・意見交換が可能な議事運営
	④	取締役会における適切な内部通報制度の構築及び定期的な運用状況の監督
課題	①	社外取締役の経験を十分に活かすための適切な機会の提供
	②	取締役会のあるべき姿の定期的な見直し
	③	取締役に対するトレーニング機会の斡旋や支援

株主還元・資本政策について

ドン・キホーテ HLDGS

1. 事業投資

内部留保金は、事業ポートフォリオ最適化のための再投資資金として活用し、企業価値の一層の向上と経営体質の強化充実を図ることが、株主還元の最大の目的と認識しております。

2. 配当政策

配当政策は、企業体質の充実と将来の事業展開を勘案した内部留保の充実に努めるとともに、持続的な成長に合わせて増配を継続する「**累進的配当政策**」を基本方針としております。

3. 自社株買い

自社株買いについては、利益成長機会とのバランスや資本効率の改善効果を踏まえて、株価純資産倍率（PBR）が1.0倍を下回る局面を目処に機動的に実施することとし、中長期的な株主還元の強化を目指すことを基本方針としております。

4. 資本政策

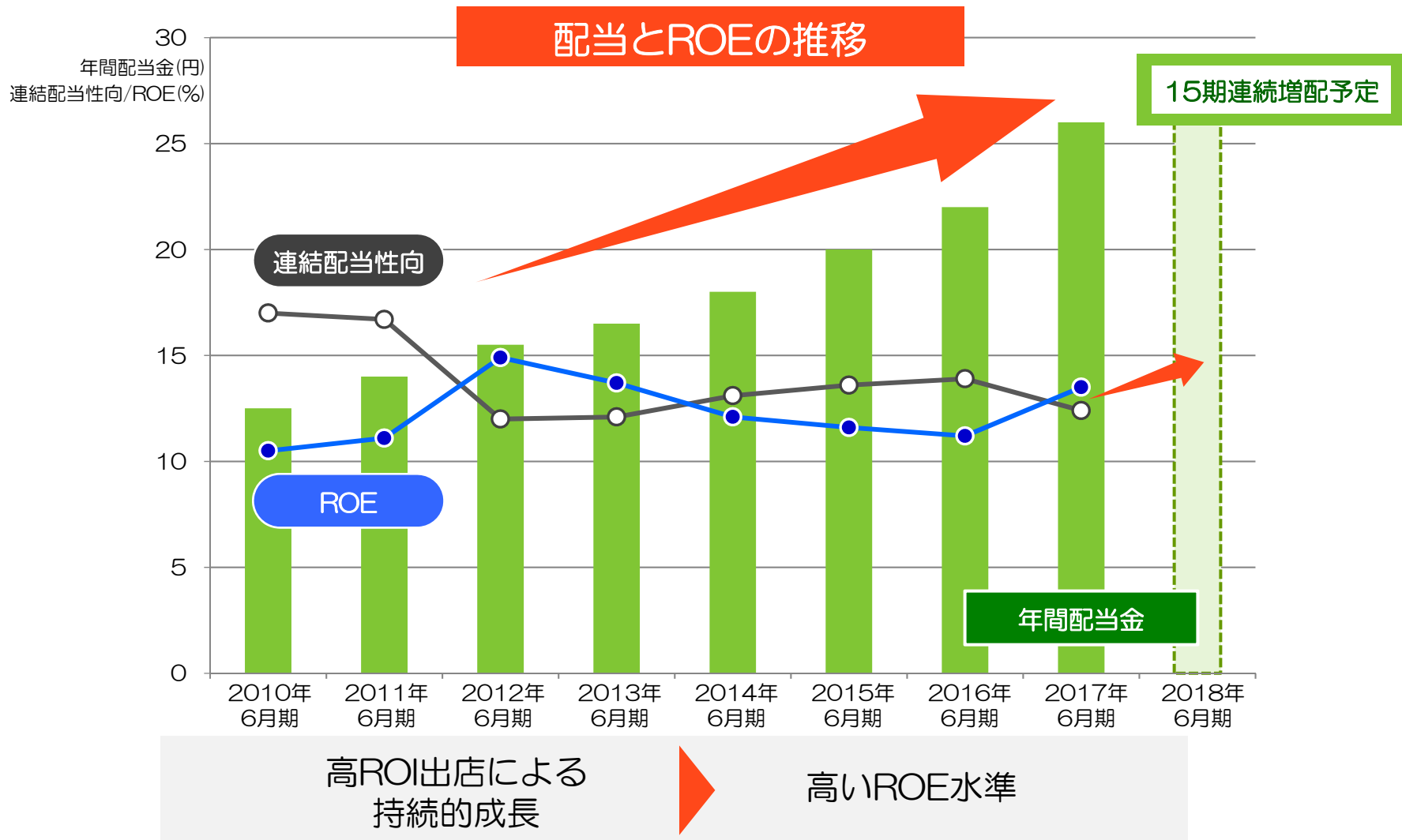
外部環境の変化や消費動向を見極めつつ、適時適切な資本政策の推進により、企業価値の向上を図ってまいります。

5. 資金調達

事業成長に資する資金調達は、金融機関からの借入、コマーシャルペーパー及び社債発行などの負債調達（デットファイナンス）を採用し、株式発行などの資本調達（エクイティファイナンス）は当面の間、実施する予定はありません。

資金調達については、事業活動の成長ステージと外部環境を鑑みて、多様な選択肢の中から、柔軟かつ最適な調達手段を講じてまいります。

株主のみなさまとともに



「高リターンの本業投資」と「累進的配当（増配）」で還元。
連結配当性向は中期的に20%以上を目指します。

ビジョン2020と当期の施策

ドン.キホーテ HLDGS

— ビジョン2020 —

Sustainable Value Creators!

1. 売上高 1兆円（当期進捗率予想：94%）
2. 店舗数 500店（当期進捗率予想：84%）
3. ROE 15.0%（当3Q実績：13.5%）

—2018年6月期施策—

お客さま満足の最大化を追求しながら、継続的な成長と安定を目指す！

1. 営業方針：

- 商圏内競争を勝ち上がり、収益力拡大とブランド力の底上げを図る
- 素早く柔軟な体制強化のため、いっそう狭くて深い権限委譲を徹底
- インバウンド消費の需要創造と収益最大化
- スモールメリットとスケールメリットの両立

2. 商品戦略：

- 付加価値の高いディスカウント体制の一層の強化
- 儲ける力を持ち、スピード感のあるMD立案と実行
- 生活必需品の品揃え強化と徹底したEDLPの推進

3. 店舗戦略：

- 設備投資額450億円
- 新規出店31店+ダブルネーム6店の業績拡大
- DQ既存店売上高予想：3Q累計実績=4.5%増、4Q予想=0.6%増、通期=3.5%増

4. 人事戦略(雇用改定5ヵ年計画の推進)：

- 多様性を認める企業文化を堅持
- 多様な雇用形態の創出
- 権限委譲とノンストレス型職場環境づくりの両立

5. 財務戦略：

- 資金効率及び収益力を高めてバランスシートを改善、
1USD=105円、1SGD=80円前提
- デットによる資金調達を実施（エクイティ調達は予定無し）
- 年間配当金予想=27円00銭
（「累進的配当政策」を基本方針とし、15期連続増配予定！）

Note

当3Qから、QSIのPL連結及びユニーの持分法適用を開始しております。

通期の連結業績予想

ドン.キホーテ HLDGS

(単位：百万円)

	通期修正予想			前回予想 ^{※1}		前期実績	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比	金額	百分比
売上高	935,000	100.0%	112.8%	920,000	100.0%	828,798	100.0%
売上総利益	242,000	25.9%	110.7%	240,000	26.1%	218,580	26.4%
販管費	191,000	20.4%	110.8%	189,000	20.5%	172,395	20.8%
営業利益	51,000	5.5%	110.4%	51,000	5.5%	46,185	5.6%
経常利益	54,000	5.8%	118.6%	53,800	5.8%	45,523	5.5%
当期純利益	33,300	3.6%	100.7%	32,200	3.5%	33,082	4.0%
1株当たり純利益	210.51円	—	100.6%	203.55円	—	209.18円	—
設備投資額	45,000	—	99.2%	45,000	—	45,357	—
減価償却費	14,800	1.6%	105.2%	15,000	1.6%	14,075	1.7%

※1. 前回予想は、2018年2月6日に当初予想（2017年8月15日公表：売上高8,800億円、営業利益480億円、経常利益480億円、純利益280億円）を修正したものであります。

「顧客最優先主義」と「企業価値の拡大」を追求し、
ディスカウント体制の一層の強化を進めながら、
引き続き増収増益決算を目指します。

上場子会社決算業績概況

日本アセット
マーケティング
(8922)

【PL概況】

	2018年3月期			2017年3月期	
	金額	百分比	前期比	金額	百分比
売上高	19,199	100.0%	107.3%	17,896	100.0%
売上総利益	8,498	44.3%	105.4%	8,065	45.1%
販管費	962	5.0%	140.8%	683	3.8%
営業利益	7,536	39.3%	102.1%	7,382	41.2%
経常利益	7,220	37.6%	106.5%	6,779	37.9%
当期純利益	6,547	34.1%	58.9%	11,120	62.1%

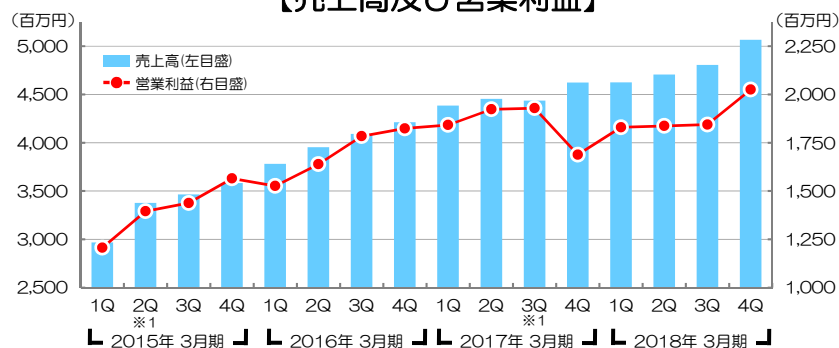
(単位：百万円)

【BS概況】

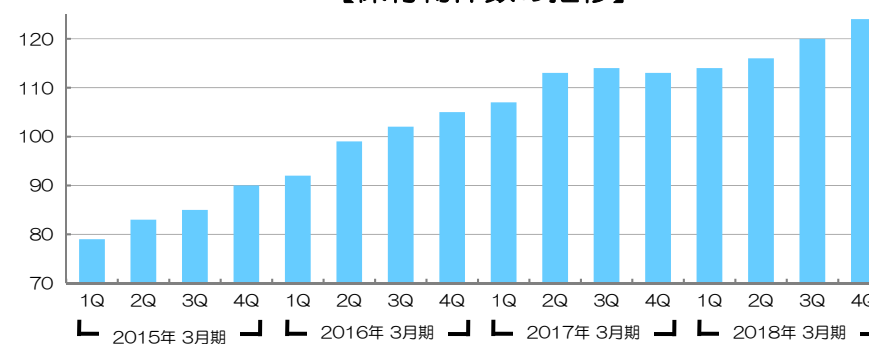
	当期末		前期末
	金額	増減	金額
流動資産	32,041	3,410	28,631
固定資産	146,965	30,154	116,811
資産合計	179,006	35,564	145,442
流動負債	15,619	▲203	15,822
固定負債	60,141	▲4,719	64,860
負債合計	75,760	▲4,922	80,682
純資産合計	103,246	38,487	64,759

(単位：百万円)

【売上高及び営業利益】



【保有物件数の推移】



グループ総合力を発揮して収益力は着実に上昇！

本日はありがとうございました

ドンキホーテ HLDGS

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ドンキホーテホールディングス IR部

〒153-0042 東京都目黒区青葉台2-19-10

TEL：03-5725-7588 FAX：03-5725-7024

e-mail：ir@donki.co.jp

IRカレンダー

第38期（2018年6月期）決算発表（予定）

決算発表日：2018年8月10日（金）

説明会会場：ステーションコンファレンス東京（東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー）

将来見通しに関する注意事項

本資料におきましては、投資家の皆さまへの情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆さまがいかなる目的にご利用される場合においても、お客さまご自身の判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

ドン.キホーテ HLDGS